

ぬるめの湯

大きな浴槽に浸かり、一日の疲れを流すのは、日本人の大好きな生活習慣のひとつ。市内の日帰り入浴施設はどこも盛況です。

アウルの3階にある2つの大浴場も、それらのお風呂に負けないくらい心地よい空間です。

湯船のお湯の温度設定は38～40℃とちょっとぬるめですが、これが緊張を解きほぐすのにちょうどいい温度。心臓に負担をかけることなく、副交感神経を刺激し、気分をゆったりと落ち着かせてくれます。また、季節に合わせて入浴剤も活用。特に冬期間は、乾燥を防ぐ保湿成分や、からだを温める成



分を含んだものを選んでいきます。アウルのお風呂はご家族も入浴できます。ご入居者様と一緒にひと風呂いかがですか。

スタッフ リレーエッセー

私の喜び

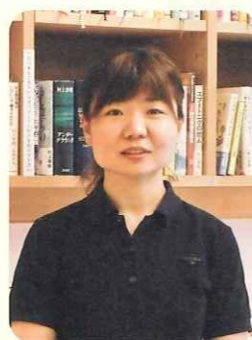
私が日々入居者の方々と関わる中で最大の喜びは、入居者様の笑顔が見られた瞬間です。初めはあいさつ程度だった会話が、日を重ねるごとに「働いていた時代」や「苦労したこと」などいろいろとお話してくださるようになると、もっと聞きたくなり、もっとコミュニケーションを図りたくなります。

お一人おひとり違う人生を歩んでこられた大先輩ですから、お話はどれも興味をそそるものばかりで、視野も広がります。楽しそうに話される姿につられ私も笑顔になり、心が満たされます。それは私にとっての仕事の活力、この仕事の最大の魅力です。

やりがいの持てる環境で働

介護士 千葉 いくみ

いている自分を幸せに感じながら、これからもここで暮らす入居者様に充実した毎日を過ごしていただけるよう、お手伝いをしていけたらいいなと思っています。



今日のらんこ

パソコンでお手伝い!?

アウルコートのいやし課長
キャバリアの「らんこ」です



入居相談 受付中

ご見学やご相談は随時受け付けています。
お気軽にお問い合わせください。

☎フリーダイヤル
0120-916-768

●介護付有料老人ホーム(一般型特定施設入居者生活介護)

アウルコート真駒内

〒005-0016 札幌市南区真駒内南町4丁目5-3
TEL.011-588-1122 FAX.011-588-1133

- 地下鉄南北線「真駒内」駅下車
- じょうてつバス「真駒内駅前」停で真駒内線に乗車(約5分)「南町4丁目」停下車(徒歩約4分)

アウルコート真駒内 <http://www.owlcourt.jp>



ふくろうの家 その11 2009年6月 だより

●発行/株式会社私の青い空
●編集/アウルコート真駒内広報室 〒005-0016 札幌市南区真駒内南町4丁目5-3 ☎011-588-1122



「おくりびと」を観て

代表取締役 武田 治信

先日、アカデミー賞外国語映画賞を受賞したことで話題になった映画「おくりびと」を観ました。死者を湯灌したり、死に化粧を施したり、死に装束を着せたりして棺に収める伝統的習慣を行う納棺師という仕事をする人を描いた作品です。納棺師の所作ひとつひとつに新鮮な驚きを感じ、ところどころに散りばめられたユーモアに笑いながらも、死への尊厳について考えさせられました。求人募集の広告に「旅のお手伝い」と載せ、応募に来た人に「誤植でした。本来は“安らかな旅立ちへのお手伝い”とするところを間違えてしまった」というシーンから映画は始まり、冒頭から笑われながらも引き込まれます。

納棺の仕事をつらわしいと言い実家へ帰っ

た妻。しかし、そんな中でも、主人公の青年は仕事で出会うさまざまな死を通してそれぞれの生き方を感じ、死が日常的であることを学び、流れるような優美な所作で死に逝く人を送る納棺師という職業への矜持を持ち始めます。彼の妻もまた、実際の納棺の儀式を見ることで、夫の仕事への尊敬を覚えていきます。山形・庄内の風景や鳥海山をバックに、主人公が河川敷でチェロを弾くシーンなど、目に焼き付いた場面も多々ありました。

「死は終わりではない。死は新たな門をくぐり抜けるだけであって、向こうにまた新たな生がある」という火葬場の職員のセリフにも感じ入りました。映画も捨てたものではありません。

アウルが熱望し 出演が実現

去る5月31日(日)午後2時から、第4回いきいきサロンが行われました。あいにくの雨



音楽を楽しみ、 深める教養

演目には「口ずさめる曲を選びました」と荒木さん。「アヴェ・マリア」など、誰もがどこかで耳にしたことのあるスタンダードな曲を中心に、この時期の真駒内にそっくりなボヘミアの森を表現したドヴォルザークの「森の静けさ」なども交え、バラエティに富んだ選曲でした。

曲の合間には楽器や楽曲の説明があり、ユーモアを交えたミニ音楽講座に、会場の雰囲気も和らぎました。そのおかげか聴く側の反応も良く、日本唱歌の「出船」では荒木さんの狙い通り会場から歌声が起り、リズムカルな「ユーモレスク」

模様となりましたが、入居者様とご家族、地域の方々など、40名を超える来場がありました。

今回はチェロとピアノのレストランコンサートで、演奏してくださいましたのは札幌交響楽団の

では体全体で拍子を取るなど、皆さんがリラックスしながら音楽を楽しまれている様子が伺えました。

間に15分の休憩を入れ、コンサートは午後3時40分に終了。途中トイレなどで席を離れた方はいらっしゃいましたが、全員が体調を崩すことなく最後までコンサートを楽しみました。

文化と交流の場、 名実ともに 「サロン」へと

今回は、いきいきサロン初の日曜開催ということもあり、来場者にはご入居者様の息子さんをはじめ、働き盛りの男性の姿がちらほら見られました。

チェリスト・荒木均さん、サポートは札幌出身の

ピアニスト・坂上美帆さんです。荒木さんには去年の冬に演奏依頼をしたものの、予定が合わず見送りとなり、今春再度お願いして出演が実現しました。



また、休憩時間にはスタッフが用意したお茶やコーヒーを手にお客様同士が歓談されるなど、文字通り“サロン”の雰囲気が感じられたのも今回の特徴でした。

「“施設の高齢者”ではなく“クラシックを楽しむ方”に向けて演奏しました」とおっしゃった荒木さん。その姿勢は、きっと会場の全ての人に伝わったことでしょう。



▲左から、ピアノの坂上美帆さん、チェロの荒木均さん



第4回いきいきサロンはチェロとピアノのデュオ 重厚な響きと音色に心ゆだねて

アウルの四季彩々日記

●4/1(水)

アウルの誕生日

おかげさまで、この春アウルは満2歳となりました。開設記念日の昼食は、華やかなお祝い御膳。お刺身やお赤飯でアウルの誕生日をお祝いしました。



●5/5(火)

いきなりお花見

午前中の陽気につられ「今日行こうか!」と急きょお花見が決定。車で10名ほどの入居者様がエドウィン・ダン記念公園を訪れ、身近に多くの桜がある喜びを満喫しました。



●5/5(火)

「こどもの日」気分

季節の行事は、四季を感じる暮らしのスパイス。4月下旬から館内にはこのぼりの壁掛けを飾って雰囲気盛り立て、当日はボリューム満点の助六寿司でお昼のひとときを楽しみました。



●5月下旬

春のアウル農園

この春は、曜日を決めての作業ができないほど天候が不順。農園長の山地さんは、お天気や地熱の状態を見ながら、その都度できる作業を進めています。



アウルで趣味活動

昨年から制作に取り組んできたちぎり絵の七福神が、ついにできあがりしました! 天地1mを超える大作の完成に達成感もひとしおです。制作中は楽しみながら手指を動かすことができ、ちょっとした脳トレにもなったとか。力作は1階エレベーター横に展示していますので、ご来訪の折にはぜひご覧になってください。

